

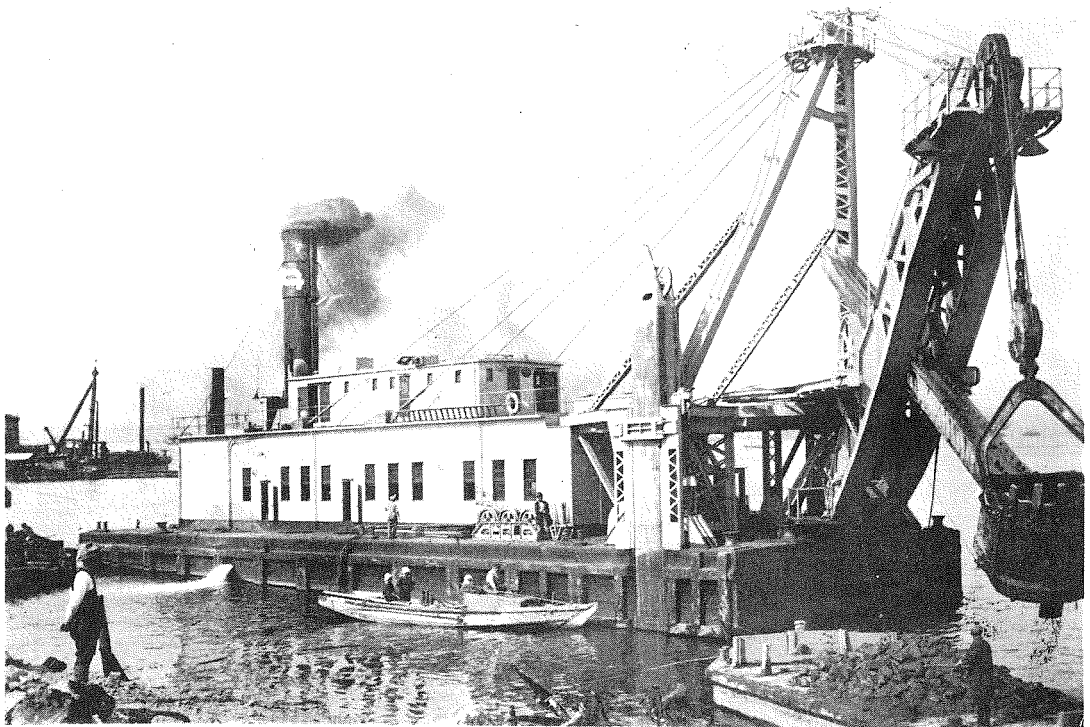


(20) 唧筒式浚渫船にて埋立中

(20) Suction Dredge Being Used for Sand Filling.

重要ナル使用機械表

名 稱	形 狀 寸 法	能 力	價 格 円	納 入 者
(搔揚式浚渫船) 龍 神	長一二〇呎幅四〇呎深一三呎 吃水七呎六吋	ヂツパー容積六立方碼 浚渫力一日二〇〇立坪	船 192,000 機 260,165	船 體 横濱船渠會社 機 械 三井物産會社
(唧筒式浚渫船) 龍 王	長一〇〇呎幅二六呎深一〇呎 吃水五呎六吋	パイプ徑二四吋 吸揚力一日五〇〇立坪	166,558	內務省千住機械工場
(鋤簾式浚渫船) 浮 島 丸	長一五〇呎幅三四呎深一四呎 吃水九呎六吋總噸數五二二噸	速力九哩 浚渫力一日六〇〇立坪	333,000	浦賀船渠株式會社
碎 岩 船	長七五呎幅三六呎深七呎六吋 吃水四呎	カッター重量一〇噸 碎岩力一日四〇立坪	51,504	同 上
第 一 號 重 機 船	長六六呎幅三〇呎深八呎 吃水四呎三吋	二〇噸	39,100	鳥 羽 造 船 所
第 二 號 同	同 上	同	46,000	同 上
第 三 號 同	同 上	同	46,000	同 上
第 四 號 同	長八〇呎幅四〇呎深八呎 吃水四呎一吋	五〇噸	96,642	石 川 島 造 船 所

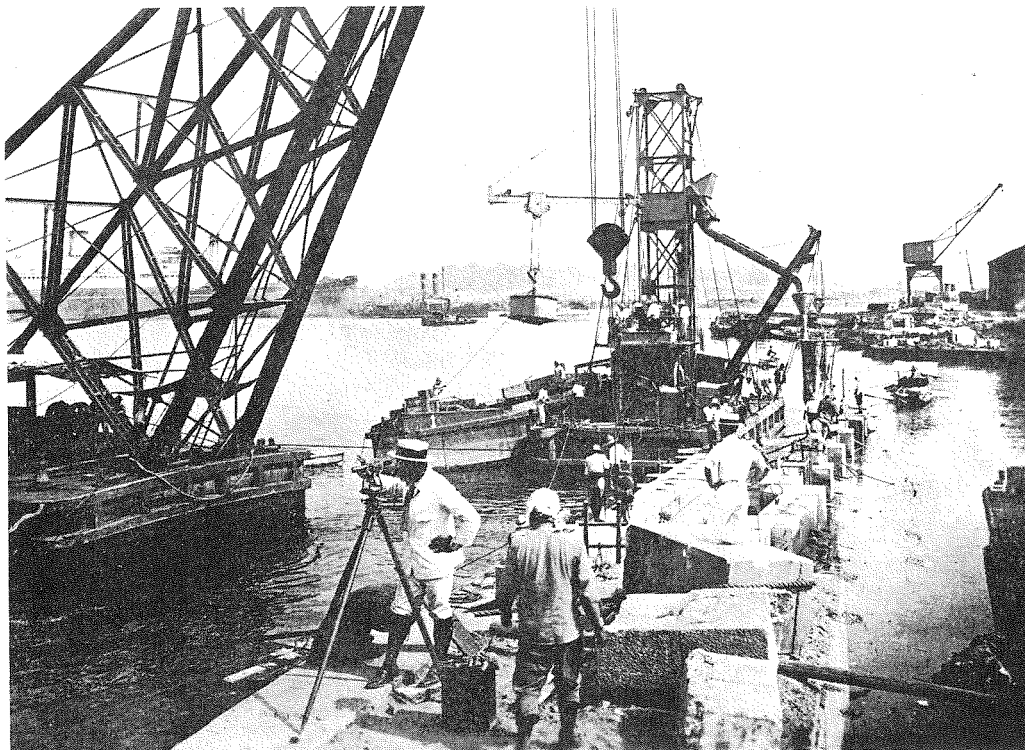


(21) 搖揚式浚渫船
 テッパ一容積六立方碼
 浚渫力一日二百立坪

(21) 6 Cu. yd. Dipper Dredge Clearing Bottom.

主要なる使用機械表

第一號 プリストマン	長五四呎幅二二呎深六呎 吃水四呎 B型	浚渫力一日一五立坪	船體 8,600 機械 6,784	船體淺野造船所 東京第二土木出張所 ヨリ保管轉換
第二號 同	長五四呎幅二二呎深六呎 吃水三呎六吋 D型	浚渫力一日立坪	16,258	緒明菊三郎
第四號 同	長五五呎幅二三呎深五呎九吋 吃水四呎 DD型	浚渫力一日二五立坪	35,060	内務省千住機械工場
第五號 同	長五五呎幅二三呎深五呎九吋 12EE型	浚渫力一日三五立坪	船體19,995 機械48,150	船體 渡邊亮平 機械 米井商店
第六號 同	長五五呎幅二四呎深五呎九吋 12EE型	浚渫力一日三五立坪	船體24,349 機械48,500	船體 石川島造船所 機械 米井商店
第七號 同	長五五呎幅二三呎深五呎九吋	浚渫力一日二五立坪	船體19,800	船體 淺野造船所
混凝土 混合機船	長六〇呎幅二一呎深九呎九 五吋 吃水四呎六吋	ミキサ一容積四五立方 呎混合力一日三〇立坪	68,000	大阪鐵工所
小蒸汽船	一二艘			

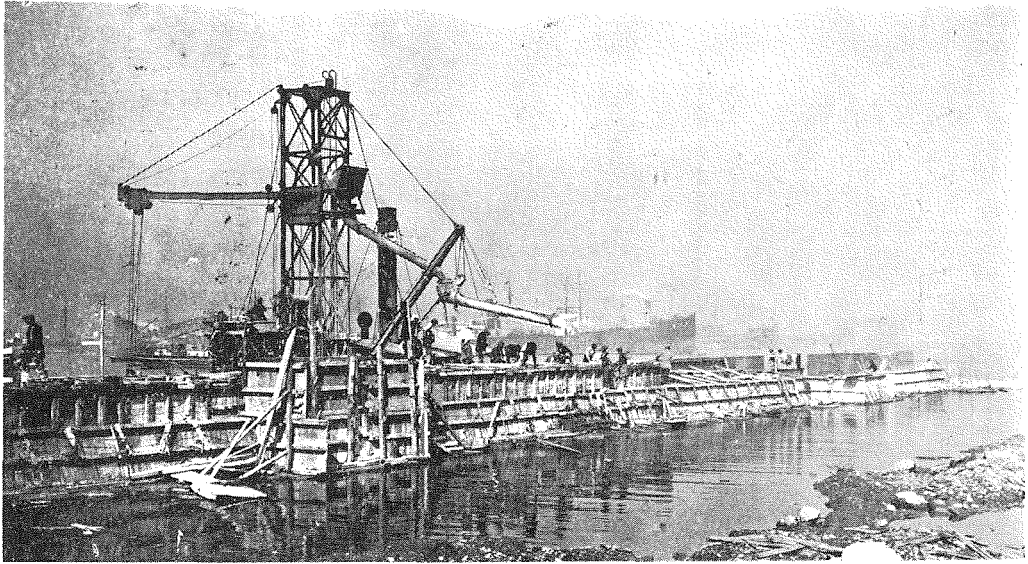


(22) 四號岸壁水中コンクリート施上中臺船上に運轉しつゝあるコンクリート設工設備を見よ

(22) Concrete Placing Plant on Pier.

土運船其他の使用機械

五十坪積土運船	一 般			
三十坪積同	二 般			
二十坪積同	六 般			
十 坪積同	二 般			
七 坪積同	二 般			
四 坪積同	一〇般			
二坪積材料運搬船	三四般			
發 動 機 船	七 般			
自 働 艇	六 般			
セメントガン	A 型	一回吹付量一立方呎 空氣壓搾{一平方吋 _三 付} 機ノ壓力{一〇〇封度}	3,350	日本放射機工業株式 會社
グ ル ー ト ミ キ サ ー		一回注入量一立方呎 空氣壓搾{一平方吋 _三 付} 機ノ壓力{八〇封度}	1,699	淺野物産株式會社
ス キ ッ プ	六〇個	容積一八立方呎	128,800	當所機械工場
大 畚	材料周三時ノワイヤーロープ 其他周二時四分ノ一及三時ノ マニラロープ	容 量 貳 立 坪 耐久力 二ヶ月半	約 240	直 營



(23) 岸壁上部コンクリート工事
 混凝土總量 一萬五千立方

(23) Plant in Operation, Placing 120,000 cu. yds.

工事施行の豫定と實際

大正十二年十月二十一日、本港復舊工事施行の決定を見るや、直ちに諸般の準備に従事し、又工事にして着手し得べきものは直ちに着手し、従業者一同犠牲的精神を以て之に當り、爾來、著々豫定以上の進捗を見るを得たり、即ち左の如し。

工種	着手年月日	竣功年月日	豫定 遅レ 日	ヨリ タル 數	豫定 速カ ナリ 日數	ヨリ シ 日數
六號岸壁	12.11.1	13.2.21		21		
二號岸壁	13.1.27	13.3.23				8
防波堤本體	12.11.19	13.4.15				15
防波堤頭部 及補強	13.2.16	13.5.22		22		
九號岸壁	12.11.6	13.5.20		20		
十號岸壁	12.11.6	13.5.30		30		
十一號岸壁	12.11.6	13.5.30		30		
一號岸壁	13.4.1	13.6.27				3
新港護 物揚場	13.4.30	13.9.30	豫定通り			
四號岸壁	13.2.1	13.9.12				17
三號岸壁	13.2.1	13.9.20				41
十二號岸壁	13.8.7	13.12.25				6
十三號岸壁	13.7.9	13.11.15				46
五號岸壁	13.4.22	14.1.20		20		
舊港護 物揚場	13.9.26	14.1.31	豫定通り			
七號岸壁	13.5.16	14.2.20				8
八號岸壁	13.5.1	14.3.20				10
棧橋	13.11.1	14.10.31	豫定			

復舊工事によりて得たる 復舊以上の利益

當土木出張所に於て施行する横濱港復舊工事豫算は前記の如く九百二十五萬餘圓にして、其目的は單に被害設備の復舊に止り、毫も港の能率増進にあらざりしが、工事施行の方針を決定するに當り、四號及九號十號十一號の兩岸壁新法線を在來のより八間前進せしめたるに依り、新港兩突堤の幅員、在來六十間なりしものを六十八間に増加し新に二千六百三十二坪の埋立地を得たり、此が爲に在來の上屋は其幅員十四間に過ぎざりしが、之を幅員十八間乃至二十二間に改築するを得べく、上屋の收容力又從て増進するを得べし、新岸壁線の前進は唯上屋の收容力増進に止まらず、又其水深を増加することを得たり、即ち四號岸壁の水深は從來三十二尺なりしが之を三十四尺に、九號十號十一號の水深は從來二十四尺及二十八尺なりしが之を二十六尺及三十尺に増加することを得たり、是頗る大なる利益にして、從來棧橋以外に繋留し得ざりし大船も此等岸壁を利用し得るに至るべし。

又十二號新岸壁は在來のより、十間前進せしめたるに依り、新に五百十坪の上屋敷地を増加し得たるのみならず、其水深二十尺なりしを二十四尺に増加したる爲め其利用又震災前に倍加するに至るべし。